学校法人永原学園

さんこう 児童クラブ通信

令和６年６月発行
―　第３号　―

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

『Ｋ先生、おかえりなさい♡』

思わぬ怪我の治療で長期のお休みをしていたＫ先生が復帰しました。大喜びの子ども達！その間、３月末に退職したＨ先生が時々来て子ども達の気持ちに寄り添ってサポートして下さいました。幼稚園の職員も日替わりでお手伝いをしましたが、やっぱり専従の支援員の先生には及びません（＾＾。。）ホット一安心です！

さて、時々しか足を運べない児童クラブですが、子ども達の成長と共に関係性も難しくなってきました。

こども園や保育園等の時代には、「先生」は家族の次に信頼・依存される存在であったような気がします。子ども達の心情が傍からもよく分かりました。しかし、小学２，３年生と進級した子ども達は学校でどんな時間を過ごしているのか全く分かりません。共通の話題探しに苦戦している今日この頃です。そんな中、今月の支援員のコラムに今のこども達への思いが記載されていました。保護者の皆様と共有・連携して、子ども達の成長を見守っていきたいと思います。

ご協力を宜しくお願いします。　　福元芳子先生

６月の目標　「友達の思いを考える」

子どもたちは、友達への「好き」の気持ちを体全体で表現しています。そのこともあって、嬉しい気持ち、楽しい気持ちが高まりすぎて自分の気持ちと行動のコントロールができず、叩く、乗る等の行動が目立っています。友達はどんな表情をしているのか見て判断したり、「やめて」と言われたら嫌なのだと気付いてやめたりする等、相手の思いを考えて行動できるように子どもたちと再度確認したいと思います。

子どもも大人も相手を思いやる気持ちを大切にできる児童クラブでありたいです♪

【室内遊びもわくわく♪】

室内遊びというと製作活動！というイメージですが、身体を動かして遊ぶことが大好きな子どもたちが多いので、なるべく身体を動かしたりゲーム感覚を味わったりする遊びができる環境を整えていきたいと思っています。

≪今ブーム！身体を動かす室内遊び≫
- バスケットボールシュートゲーム
- 野球
- サッカー的あてゲーム　等

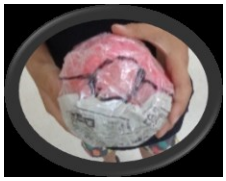
〈ふわふわボールの作り方〉

① 気泡緩衝材（プチプチ）を新聞紙で包み、丸める。
② 透明ビニール袋に入れ、セロハンテープで袋の口を閉じる。
③ 袋の尖ったところがあれば丸に整え、セロハンテープで留める。

※気泡緩衝材は、綿等軽いものであればOKです！

子どもたちのオリジナルボール！

バスケットボール


モンスターボール

いずれも、怪我の防止や壁などの破損の危険を最小限にできるよう、ボールの軽量化を意識。

しかし・・・

投げたり打ったりすることで耐久性がなく、袋が破れてしまうのが今の課題です💦

今後、別のもので外側を補強に取り組んでいきます。もし良い案がありましたら、是非教えてください♡

友達の姿を見て楽しむ姿も♪

子どもたちとアイデアを伝え合い、工夫を融合しながら共に遊びを盛り上げていきたいです(*'▽')

６月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	5月末退所者数
1年生	6	2	4	0	0
2年生	13	1	12	0	0
3年生	12	1	11	0	0
計	**31**	**4**	**27**	**0**	**0**

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学部の窓から

「見えないものへのまなざし」

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科
准教授　末次　絵里子

山口県出身の童謡詩人、金子みすゞさんは、常に陽の当たらない場所や、陽の当たらない人や物にこそ深い愛情を持って目を向け、多くの詩を遺してくださいました。例えば、「大漁」という詩では、鰯の大漁に沸く濱の人々の姿の裏では、海のなかで仲間の死を悼み、とむらいをしている鰯たちがいることに気付かされます。

大漁　　金子みすゞ
朝焼小焼だ/大漁だ/大羽鰯の/大漁だ 濱は祭りの/ようだけど/海のなかでは/何萬の/鰯のとむらい/するだろう。

また、「星とたんぽぽ」という詩では、昼間は眼に見えないけれども、そこにじっと居て夜を待っているであろう星の存在、「見えぬものでもある」ということに、あらためて思いを馳せることができます。

星とたんぽぽ　　金子みすゞ
青いお空の底ふかく、/海の小石のそのように、/夜がくるまで沈んでる、/昼のお星は眼にみえぬ。/見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。 散ってすがれたたんぽぽの、/瓦のすきに、だァまって、/春のくるまでかくれてる、/つよいその根は眼に見えぬ。/見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。

幼い子どもたちは、大人よりも、みすゞさんの詩の世界に近い感性を有しています。ある子どもは、小さな蟻を見つけて追いかけ、巣穴の中をいつまでも見つめていて、その巣穴の周りを踏まないように、次の日も、その次の日もそーっと歩き、穴の中を守ろうとしています。また別の子どもは、一羽で飛ぶ鳥さんの、家族はどこで待っているのか、ちゃんと帰ることができるのかを心配したりしています。果てしなく広がるイマジネーションの世界と、すべてのものに宿る命の灯を感じるやわらかな感性が幼い子どもには宿っていて、みすゞさんの詩の世界と重なります。

心理臨床においても、物事の表だけでなく裏側も、見える部分だけでなく見えない部分にも、目を向けることを大切にします。一面だけしか見ないならば、真実や本質には気付くことができません。しかし、人は、成長するにつれ、目の前の現実的かつ視覚的に強い刺激に惑わされ、対応に追われ、幼子のような柔軟な感性を見失いがちになるように思います。小さきものの命をかけがえのないものとしてとらえることのできるあたたかいまなざしや、目に見えない領域、イマジネーションの世界を生き生きと感じることのできる奥深く柔軟な心をいつまでも持ち続けることができるよう、子どもたちの内面を大切に大切に守り、育ててあげたいですね。金子みすゞさんの詩を味わうことで、私たち大人も、大切なものを見失わない感性を呼び覚ましていきたいものだと思います。

（文献）金子みすゞ全集　I「美しい町」・II「空のかあさま」　1989，JULA 出版局